大地の秘密探検隊

ヒスイ！ 化石！ 大断層！

ジオパークの宝物をゲットだぜ！

9月15日(土)～17日(月)

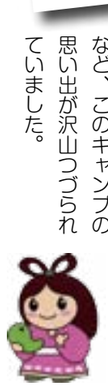
糸魚川ジオパーク協議会と共催で実施した大地の秘密探検隊。県内各地と栃木県、埼玉県、富山県、滋賀県から総勢20名（小学校5・6年生）の岩石好き、化石好きな子どもたちが糸魚川世界ジオパークに集まりました。

子どもたちは、2泊3日のキャンプで、ジオパークの不思議を求めて西へ東へと移動しました。観察ポイントで出されるミッションをクリアーするために、フォッサマグナパークの糸魚川－静岡構造線で断層粘土に触れたり、小滝川ヒスイ峡でヒスイの原石を観察したりしました。また、大きなメノウや3億年前の化石探しに、胸をわくわくさせました。箱一杯の宝物を前に、とってもうれしそうでした。

最終日に書いたジオパーク新聞には「今まで石はあまり気にならなかったけど、沢山知らない石があるんだなとびっくりした。楽しく学習できてとてもよかったです。」「感動！発見！の楽しい三日間でした。東日本と西日本の境目に立ったときには、なんだか不思議な気持ちになりました。この体験は一生の宝物になると思います。」など、このキャンプの思い出が沢山つづられていました。

小滝川ヒスイ峡

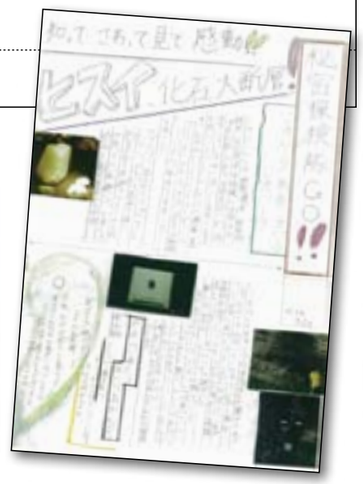
ジオまる



ぬーな

活動プログラム

時間帯		5時 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
9／15(土)	晴天	受付 開会式 移動 フォッサマグナミュージアム ・面識会 ・講義・化石探し ・館内見学 移動 青海中学校セミナーハウス ・とん汁づくり ・荷物整理 ・夕食・休憩・入浴 妙高山モデル作り 就寝
	荒天	妙高 糸魚川
9／16(日)	晴天	起床 荷物整理清掃 朝のつどい 朝食清掃 出発 移動 ＜ジオサイト巡検＞ ①フォッサマグナパーク ※糸魚川-静岡構造線断層露頭 ②小滝川ヒスイ峡 昼食休憩移動 ＜ジオサイト巡検＞ ③青海海岸 ④弁天岩 ⑤浜徳合の砂泥互層 移動 夕食休憩 妙高山モデル作り 岩石標本作り ナイトハイク 星座観察 妙高山のでき方学習 妙高山モデル作り 岩石標本作り 入浴 就寝
	荒天	糸魚川 妙高
9／17(月)	晴天	起床 荷物整理清掃 朝のつどい 朝食清掃 ジオパーク新聞づくり 閉会式 解散
	荒天	妙高



フォッサマグナミュージアム（化石の谷）

弁天岩

妙高 ひまわりキャンプ

妙高ひまわりキャンプとは？

「妙高ひまわりキャンプ」は、養護施設と連携し、上越教育大学、上越児童相談所からの支援を受け実施した2泊3日のキャンプです。夏・冬の年2回実施し、今年で3年目となります。

このキャンプでは、家庭や社会により心や身体に様々な課題を抱えた子どもたちが、妙高の豊かな自然の中で思いっきり活動し、自然の中で心を解放していくこと、自らプログラムの企画立案に携わることで、主体的に活動にかかわるだけでなく、仲間とともに作り上げる喜びを感じ、今後の自立へのエネルギーを養うことを目指しています。

このキャンプでは、子どもたち自身が2泊3日のプログラムの具体的な内容を事前に相談して決めています。（写真1）

また、プログラムの運営も子どもたちが行っています。

活動プログラム

時間帯		5時 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23
8／8(水)	晴天	到着 式・IKR 準備 昼食 びっくりランチ ファイヤー（かえで広場） 森小屋づくり打合せ 就寝
	荒天	キャンドル（ミーティングルーム）
8／9(木)	晴天	起床 片付け準備 朝のつどい 朝食 部屋点検 森小屋づくり① 昼食 森小屋づくり② 自習時間準備（ペガスス広場） 夕食 ナイトハイク 就寝
	荒天	
8／10(金)	晴天	起床 シュラフほし 片付け 準備 朝食 テント点検 森小屋こわし 陶芸 昼食 式・IKR 出発
	荒天	

子どもたちの様子

びっくりランチ（野外炊事・詳しくは21ページ参照）では、机の上に広げられた材料を見て、相談しながら楽しく作る料理を決めました。材料を切ったり、道具を準備したりと、分担していた役割をそれぞれが行っていました。できた各班の料理をみんなで試食しました。

キャンプファイヤーでは、点火の儀式やレクリエーションの流れを決め、その責任をしっかり果たしました。活動の中で、今までの生活を振返る場面もあり、自分の気持ちを素直に表現しました。

森小屋づくりでは、その設計図を見ながら、それぞれの班にあった大きさの森小屋をつくりました。倒れないように筋交いを入れたり、平らになるように床を調整したり、自分たちで工夫しました。リーダーが声を出して作業を進め、みんなで協力して作り上げました。

今回のキャンプでは、活動に意欲的にかかわっている子どもたちの姿が多くありました。班ごとに事前の打合せで役割分担を明確にしたことで、個人の責任が生まれたことが大きな要因と思われます。仲間の頑張っている姿も、他の子どもたちの気持ちによい影響を与えたようです。

このキャンプが参加者にとって重要な意味をもちはじめているようです。

（写真1）相談の様子

リーダーのH男の感想

妙高自然の家に来た時、雰囲気がとてもよく安心しました。活動では、前回と比べると一人ひとりが責任をもって、一つ一つの活動に取り組んでいたと思います。高3になって、リーダーという立場になり、少しずつ責任の大切さ、重さを感じられたと思います。